

CASE PRESENTATION

Dentist

Technician

Hygienist

ホームホワイトニング材「ティオン ホーム」 臨床にどう活かすか!!



東京都開業 近藤歯科
歯科医師
近藤隆一

はじめに

冒頭から筆者自身に関する記述で申し訳ないが、1991年からホワイトニングを開始してからほぼ20年が過ぎ去った。ホームホワイトニング用の薬剤が製品化されたのは

1989年、その間にホワイトニング全般はさまざまな試行錯誤のもとに進化しつづけ、歯科医院の診療項目の1つとして認知されるまでに至っている。開始時点の状況を回顧す

ると、さまざまな点において隔世の感があり、20年後の2009年というタイミングで「ティオン ホーム」が使用可能という意味は、新しい時代の到来を告げているのかもしれない。

ホワイトニングの最重要ポイント

「正しいテクニックの提供」と「患者の満足感を引き出す」

↓
良好な改善効果をもたらす
治療テクニックの提供

↓
適切な情報提供により「患者さんの満足度」
というメンタル面のケアを重視する



1-1

術前：シェードを確認する目的でVITAPAN CLASSICALを同時撮影している。



1-2

術後：シェードガイドと比較して、B1よりも明るい色調となっていることに注目。



1. 「ティオン ホーム」の優位性 (製品特長)

ごまかしたり、避けたりすることができない「重要事項」について言及しておきたい。日本国内において、現時点ではホームホワイトニング製品に関する薬事申請の際には必須条件として、薬効成分は10%過酸化尿素と明確に定められている。正確にコメントするなら、国内販売品の効果効能(あるいは有害事象の発生)については横並びであり、原則として同じと言わざるをえない。ちなみに海外においてはさまざまな濃度の過酸化尿素、あるいは過酸化水素が使用されているだけでなく、知覚過敏の発生を低減させる目的でフッ化ナトリウムなどが添加されている。

そのような国内事情の下で開発された「ティオン ホーム」だが、製品を個性化しているポイントは以下のa~dである。

a. 白色ジェル

「安全・安心」がキーワードとなるよう「不透明な白色ジェル」を採用している。白色で認識しやすいため、透明ジェルよりも、マウストレーにジェルを注入する際の量的コントロールが容易なだけでなく、歯肉など不適正な箇所への付着を防ぐ効果がある。また、患者さん自身が手鏡であふれ出た薬液を容易に確認でき、拭い取ることができるので、軟組織への不要な刺激が軽減される。

b. 適度な流動性

白色ジェルは「目的にかなう流動性」を目標に製品化されたため、マウストレーに注入したジェルが流れないように、トレー内に均等に広がるよう、そしてトレーから漏れ出すことのないように工夫されている。

c. pH 8.0

歯面性状に与える影響を極力排除できるのが「pH8.0」、ジェルの性状を理想に近づけるという設定をクリアーしている。

d. シート材質

マウストレー用の材料として、スポーツ用マウスガードにも利用されるスチレン・イソプレンブロック共重合体という優れた素材が用意されている。「柔軟性と耐久性・耐衝撃性」が共存するため、ソフトな装着感で違和感が少ないことから、ユーザーの反応は良好といえる。

2. 適応症と禁忌症

適応症と禁忌症

適応症

嗜好品・飲食物による外因性着色、軽度・中程度のテトラサイクリン変色、DNA由来の強い黄ばみ、加齢による変色

禁忌症

エナメル質形成不全、象牙質形成不全、重度のテトラサイクリン変色、金属材料による変色、妊産婦、授乳中の女性

適応症と禁忌症については十分に理解し、診断時に必要により患者さんに伝える。

ホワイトニング項目別難易度表

項目	難易度 (低)	難易度 (高)
変色の原因	加齢による変色	テトラサイクリンによる変色
変色の濃淡	薄い変色	濃い変色
変色の色調	黄橙等の暖色系着色	青・緑・紫等の寒色系着色
患者の協力度	高い	低い
患者の希望する白さの度合	ある程度の白さ	極端な白さ

ホワイトニング項目別難易度表についても診断時の重要な情報となる。これからホワイトニングをはじめ先生は、難易度の低い患者さんから行うことを勧める。

3. 感動させるためのポイント

これからホームホワイトニングを始めようと考えている、あるいは良好な結果が得られないという先生方に「成功に導くポイント」、つまりホワイトニングに対する重要事項をお伝えする。

a. 主役はどちら

ホワイトニングの満足度というよりも、「どこまで白く改善するか」という判断をする主体は患者さんである。さまざまな阻害要因を考慮して、患者さんの口腔内状況により判定する必要があるとしても、ドクターやスタッフが「この程度で」と抑止するのではなく、限界まで誘導するのが術者側の正しい立ち位置である。

b. 成功・不成功とは

「成功・不成功」という判定も「患者さん

の満足度」が基準、論文を書くことが目的ではないので、数値的な改善度よりも感覚的な捉え方が必要となる。計測器などによる数値は補助的なサポートとし、ホワイトニング開始前のベースラインを写真撮影してデータを保管しておくこと。術後に提示することで視覚認識させることができ、改善の効果は一目了然となる。

c. ホワイトニングの成功に近道なし

ホームホワイトニングによる改善度は「患者さんがどの程度実施するか」により大差が生じる。もちろん患者さんの歯冠構造的要素がかかわるとしても、基本的には10%過酸化尿素が歯質に作用する時間の総和が大きいほど良好な結果につながる。「確実に実行させる」「継続させる」以外にショートカットはないため、ユーザー・

フレンドリーな製品の使用が求められる。

d. 不具合への心構え

ホワイトニングにともなう知覚過敏から、患者さんは「歯髄が回復不能なダメージを受ける」という不安を抱き、「確実に実行させる・継続させる」ための大きな障害となる。発生が予想される不快症状を事前に説明しておくことで、治療に対する恐怖心を緩和させる効果がある。説明できないままスタートさせるドクターが多いと「ホワイトニングって、痛いんでしょ」という悪い風評が生まれるので、自院のことだけでなく歯科界全体のことも考える姿勢が必要だ。

知覚過敏への対処法

そのまま観察

どの程度の時間で治まるかを聞き取り、短時間の場合には処置する必要はない。治まるまでの間、刺激的な温度の飲食物を控えるよう指導する。

数日毎の使用に制限

12-24時間、知覚過敏が続くようだと患者さんはずらいので、2日ないし3日に1回とする。

時間制限

知覚過敏の出現に恐怖心を抱く場合もあるため、1回の装着時間を1-2時間に制限する。(完了までに実施する回数はおのずと増えることになる)

パッキング

マウストレーに「MIペースト」や知覚過敏抑制用の歯磨剤を注入して、30分程度パッキングさせる。刺激を遮断することで得られる安心感もある。

その他

海外製品の中性フッ化ナトリウムや硝酸カリウム剤を塗布したり、国内で入手可能なシュウ酸を主成分とした製品を塗布する。

※最重要事項

不具合や異常が発生したと思われる場合は、歯科医に電話連絡をして指示を仰ぐことが最善の策。

知覚過敏への対処法についてはホワイトニングを成功させるためにとても重要な情報なので、治療前に患者さんに説明しておきたい。また、スタッフの共通理解も求められる。

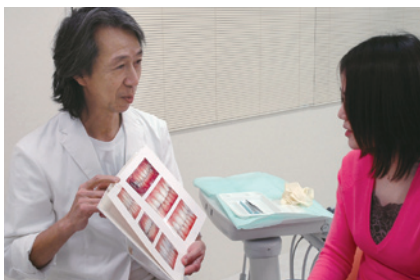
4. 「ティオン ホーム」によるホームホワイトニングの流れ

この「ティオン ホーム」の開発段階において、ジーシー社から個人的経験を基にしたアドバイスを求められただけでなく、研究所スタッフが真摯に対応してくれたため、薬事法という厳しい制限化においてもユーザー・フレンドリーといえる製品として市場に登場することとなった。私は臨床を

通して、また患者さんの反応から「ティオン ホーム」は、初心者からエキスパートに至るまで、あらゆるドクターに使用をお勧めできるホワイトニング用品であるといえる。

最後に、簡単であるが「ティオン ホーム」を用いたホームホワイトニングの流れを紹介する。

臨床ステップ(図2-10～図2-15は、患者さんが自宅で行うステップ)



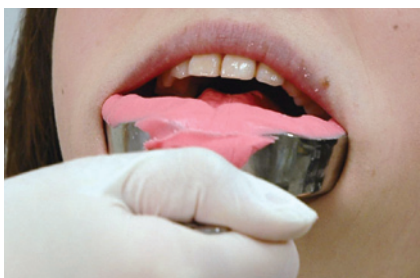
2-1 患者さんとのコミュニケーション。最初に患者さんの主訴やホワイトニングに対する知識を確認したうえで、白くしたい要望レベルを共有する。



2-2 診断。ビタブリーチドガイド3Dマスターのシェードガイドにより、患者さんの歯の色調がどのレベルかを患者さんとともに確認し、同時に到達できそうな目標も設定しておく。



2-3 歯面清掃。フッ素を含有しない研磨材「プレティオン」をラバーカップに付け、歯面を清掃する。



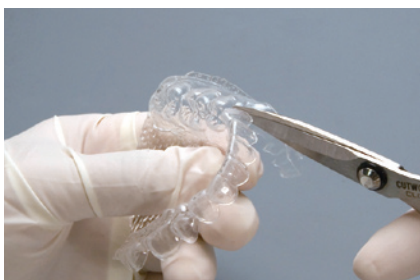
2-4 マウストレーを製作するために、印象採得を行う。



2-5 硬石こう「ニュープラストーンLE」により、石こう模型を製作する。トリミングは、上下顎どちらも中切歯の歯軸が床と垂直になるように行う。LEは硬化膨張率が0.08%と小さくフィット感のよいトレーが作れる。



2-6 プロフォームの中央部に石こう模型の前歯部分がくるように載せ、成型する。



2-7 マウストレーのトリミング。歯頸線に沿ってトリミングする。作業模型上で適合を確認する。また、マージン部にバリがあると患者さんが痛がるので十分に注意する。



2-8 トレーシートは、患者さんが口腔内に長時間装着しても痛くないように柔らかい設計になっている。硬いと締め付けられる感じがして治療が続かないこともあるので注意する。



2-9 マウストレーの試適。マウストレーを患者さんの口腔内に試適し、きつくないか、歯周にあたって痛くないかなど確認する。この調整も成功する鍵の1つ。



2-10 マウストレーにホームホワイトニング材を1歯あたり米粒2つ分くらいの量で注入する。「ティオン ホーム」は、白いジェル状で確認が容易である。



2-11 マウストレーの装着。鏡を見ながらマウストレーを歯列に装着する。ホームホワイトニング材が歯面に行き渡っているのを確認する。



2-12 ホームホワイトニング材がトレーからはみ出していた場合には、丁寧に拭き取る。「ティオン ホーム」は白色のため患者さん自身でわかる場所が良い。
※装着時間は、2時間である。この際に、歯や歯肉が痛くなったり、しめたりした場合は、トレーを外し、ぬるま湯で十分に洗い流す。歯科医へ電話するように伝える。



2-13 トレーの撤去。2時間経過したらトレーを外し、ぬるま湯で流してから、ブラッシングをして最後に「MIペースト」を塗布する。



2-14 マウストレーの洗浄。ホワイトニング終了後には、必ず十分な流水でトレーを洗浄する。



2-15 マウストレーは、十分に水分を拭き取ってからトレーケースに入れ保管する。ホームホワイトニング材は、冷蔵庫に入れて保管する。



2-16 術前。(A3)



2-17 術後。2週間後。2週間行ったら患者さんに来院してもらい、治療効果を確認する。(A1)